

女子砲丸

川口(生光学園) 会心の一投

ラスト一投に3年間の思いの全てをぶつけた。高い軌道で放たれた砲丸は、2年ぶりに14㍍を超える会心の投てきに。女子砲丸投げで準優勝した川口(生光学園)は「うまくいかないことが多かった。インターハイで14㍍台が投げられてうれしい」。栄光とスランプを味わった逸材は、最後の夏を喜びの涙で締めくくった。

予選は1投目が右にそれる失投となったが、2投目できちんと修正。予選通過記録(12㍍70)ラインを軽々と越える13㍍41を投げ、全体2位で決勝に進んだ。ベスト3争いは14㍍台のハイレベルな投げ合いが予想されていた。予選では力を抑えていたライバルたちも決勝では1投目から好記録を連発。そんな中、川口は砲丸が汗で滑るなどして1、2投目を立て続けに失敗した。3投目に13㍍63を投げて上位争いに加わったものの、5投目を終えた時点では4位だった。

「最後なので思い切っていこう」。深く体を沈めた後、勢いよく上体を起こして右手を突き出した。高く舞い上がった砲丸は14㍍ラインを越えて14㍍04の地点へ。スタンドから大きな歓声が起こり、右手で小さくガッツポーズした。

1年生の秋に全国高校大会で14㍍37を投げ、優勝した。しかし、2年時に右手首を痛め、インターハイは7位。その後もけがの影響で記録は伸びず、14㍍台は一度も投げられなかった。「1年生の時に優勝した後はずっと苦しかった」。思い描く投てきには遠く、周囲の期待に応えられないうつらさを抱えていた。

地元で開かれたインターハイで2位に入った。「ほっとしている。今はただただうれしい」。助産師になる夢をかなえるため、今後は競技と並行して勉強に励む。銀メダルの重みを感じながら「努力してきてよかった」としみじみ語った。

(富士佳輝)

陸上

2年ぶり14㍍台 努力結実

女子砲丸投げ決勝 14㍍04を投げて準優勝した生光学園の川口。鳴門ボカリスエットスタジアム(山口県萩市)で撮影

